一般社団法人日本写真学会
第７回　定時社員総会

日　時：平成 30 年（2018 年）6 月 20 日（水）9：00 ～ 9：40
会　場：国立大学法人 千葉大学 けやき会館 3 階 レセプションホール〒 263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33（JR 総武線西千葉駅 下車）

【第 1 号議案】平成 29 年度事業報告

1.　学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第 5 条（1））
1-1　学会誌の刊行に関する事項
1）発行回数　6 回　日写誌 80 巻 2 号～4 号，81 巻 1 号，BSPIJ vol.27-1，vol.27-2
2）総頁数　399 頁
3）特集
日本写真学会創立 90 周年記念（80 巻 2 号）
2016 年のカメラ（80 巻 3 号）
2016 年の写真の進歩（80 巻 3 号）
銀ナノ構造が拓く光機能性材料のフロンティア（80 巻 4 号）
画像保存（81 巻 1 号）
4）主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）

一般論文	12 件	口　絵	4 件
ノートおよびレター	0 件	紹　介(写真のある美術館)	3 件
技術レポート	0 件	報　告	0 件
講　座（ワンポイント）	3 件	書　評	1 件
解　説	18 件	会　報	4 件
資　料	0 件	その他（受賞者案内）	1 件

5）科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に，発行後 1 年経過した論文・解説等の記事を掲載した.
2.　研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第 5 条（2））
2-1　研究発表会，講演会などの実施
1）第 27 回写真好きための定例講演会（平成 29 年 6 月 7 日，JCII フォトサロン）
テーマ：「『マスター・プリンター斎藤寿雄』展の斎藤寿雄様のギャラリートーク付き鑑賞会」
参加者数 30 名
2）第 3 回デジタルアーカイブ研究会（平成 29 年 6 月 8 日，東京工芸大学中野キャンパス 1 号館 1102 教室）
講演：半導体記録デバイス - 長期保存に適したもの，適さないもの -」（芝浦工業大学 小林敏夫 先生）
全体討議：「デジタルアーカイブ研究会の進め方」
参加者：18 名
3）第 21 回アンビエント技術研究会（平成 29 年 6 月 13 日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社 201A 会議室）
講演 1「フッ素系側鎖を持つ有機半導体を活用した OFET 材料の作製とトランジスタ特性」（理化学研究所創発機能高分子研究チーム　チームリーダー 但馬敬介 先生）
講演 2「柔軟性をもつ高分子単結晶有機半導体材料」（防衛大学校講師 林正太郎 先生）
参加者：24 名
4）第 5 回天体写真技術研究会（平成 29 年 6 月 14 日，東京工芸大学中野キャンパス芸術情報館 3 階大会議室）
講演：「天体写真の被写体の広い輝度範囲と，HDR 処理との関係」（天体写真技術研究会主査/運営委員長 塩田和生，天体写真技術研究会運営委員 水口淳，天体写真技術研究会運営委員 矢口博久）
討論：「天体写真で求められる望ましい階調再現実現のポイント」（全員）
参加者：28 名
5）2017 年度 PHOTONEXT 技術アカデミー（平成 29 年 6 月 20 日，パシフィコ横浜 2F204 室）
セッション Ⅰ：最新デジタルカメラシステムの技術動向：セッション数 3 件
講演 1：「新システムカメラ GFX の開発背景とそれを達成する技術の紹介および活用術」（富士フイルム（株）上野隆 氏）
講演 2：「DC-GH5 におけるソフトウェア技術」（パナソニック（株）鈴木悠一 氏）
講演 3：「三次元的ハイファイ 3DHiFi とボケ味～AF-S 105 mm f/1.4E ED の開発」（（株）ニコン 佐藤治夫 氏）
セッション Ⅱ．映像表現技術と出力技術：セッション数 4 件
講演 4：「4K 一眼ムービーカメラ選びのためのチェック項目」（（株）Lab 鹿野宏 氏）
講演 5：「COMET プレミアムライティングの真髄」（（有）写真の川地 川地清広 氏）
講演 6：「インスタント写真（チェキ）の技術」（富士フイルム（株）藤井武 氏，鈴木信弘 氏）
講演 7：「オンリーワンの世界観のための撮影コンセプト別機材選びの極意」（写真家 相原正明 氏）
参加者数 38 名（延べ）
6）2017 年度日本写真学会年次大会（平成 29 年 6 月 21 日～22 日，一橋講堂 2 階）
画像関連学会連合会 第 1 回合同年次大会
大会スローガン「協創で築く豊かな画像文化－Enriched Imaging Culture by Co-innovation」
特別講演（1）：「偉大な先人に学びつつ，研究をすすめよう―光触媒を例にして」（藤嶋昭 先生：文化功労者，東京理科大学長，写真学会会員）
特別講演（2）：「粒子線がん治療の高精度化に向けた原子核乾板技術」（歳藤利行 先生：名古屋陽子線治療センター）
特別展示：「日本写真学会の活動紹介」：天体写真技術研究会の活動紹介と天体写真作品展示,「写真のある博物館・美術館・資料館」の案内, 連載口絵「画像からくり」の実物展示
その他，日本写真学会・日本画像学会合同セッション（インタラクティブセッション・ショートプレゼンセッション），学会賞受賞講演，招待講演，口頭発表，レセプションを実施した.
総参加者数 93 名
7）第 2 回天体写真技術セミナー（平成 29 年 7 月 10 日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社 201B・C 会議室）
今回テーマ：月と星景という身近な天体写真の第一人者の講師の方に，その楽しさと美しい写真を得るための撮影法のポイントの解説とイメージング技術の原理を理解してより高品位の天体写真を目指している「天体写真技術研究会」の活動紹介.
講演 1：「月の楽しみ方と撮影法」（白尾元理 氏：地質・天体写真家）
講演 2：「夜の風景写真としての天体写真」（中西昭雄 氏：天体写真家・（有）ナカニシイメージラボ代表取締役）
講演 3：「天体写真技術研究会の活動の紹介」（水口淳 氏：日本写真学会天体写真技術研究会委員）
全体討論：「天体写真技術研究会の進め方」（進行：天体写真技術セミナー実行委員会）
参加者数：42 名
8）2017 年プリント技術セミナー JAGAT 共催「JapanColor デジタルプリントセミナー」（平成 29 年 8 月 1 日，日本印刷技術協会 3 階）
テーマ：JapanColor デジタルを理解する～認証システムについて，デジタ　ル印刷の未来にどう役立てる
講演 1：「JapanColor デジタルの概要について」（（株）小森コー

ポレーション 波多野孝司 氏）
講演 2：「Japan Color 認証制度の現状」（Japan Color 認証制度推進部 大久保寿男 氏）
講演 3：「世界のデジタル印刷規格についての解説」（ジーエーシティ（株）堀本邦芳 氏）
ディスカッション：「JapanColor デジタルを活かしてどのようにビジネス構築をしていくか？」
参加者数 6 名（全参加者：50 名）

9）第 14 回光機能性材料セミナー（平成 29 年 8 月 30 日, 東京ミッドタウンカンファレンスルーム－9）
テーマ：「銀ナノ構造が拓く光機能性材料のフロンティア」
基調講演：「表面プラズモンとメタマテリアル」(東京工業大学: 梶川浩太郎 先生）
講演 1：「金属ナノ構造体の形と配置が決定する光機能性」（東京農工大学：久保若奈 先生）
講演 2：「銀ナノ粒子の劣化の機構と安定化の基本原理」（日本写真学会フェロー：谷忠昭 氏）
講演 3：「銀析出型エレクトロクロミック素子における銀ナノ構造制御と省エネルギー技術展開」（千葉大学：小林範久 先生）
講演 4：「誘電体/Ag/ 誘電体 多層透明導電膜の検討と有機 EL 素子への応用」（東京工芸大学：内田孝幸 先生）
講演 5：「超微粒子原子核乾板における局在表面プラズモン共鳴を応用した超解像飛跡解析技術」（名古屋大学：中竜大 先生）
講演 6：「銀ナノ石畳による光制御メタサーフェス」（富士フイルム㈱：納谷昌之）
参加者：51 名

10）第 28 回写真好きのための定例講演会（平成 29 年 10 月 17 日東京写真美術館）
テーマ：東京都写真美術館「長島友里枝写真展」展観覧とギャラリートークと東京都写真美術館バックヤード見学（東京写真美術館 山口孝子研究員）
参加者；12 名

11）第 25 回カメラ技術セミナー（平成 29 年 10 月 25 日　国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟セミナーホール）
デジタルカメラ各社とも精密機械，光学，電気，情報処理の融合による新たな価値提案を行っている状況の中で，若手技術者に各種技術情報を提供し，また技術者同士の交流の場の提供を目的に開催した.
講演 1：「ニコン・スペースカメラの開発と最新状況」（（株）ニコン：後藤哲朗 氏）
講演 2：「Dual Pixel CMOS AF 技術/Dual Pixel Raw 技術の解説」（キヤノン（株）：福田浩一 氏）
講演 3：「M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100 mm F4.0 IS PRO の開発」（オリンパス（株）：村山恭二 氏）
講演 4：「4K60P 動画無制限記録の実現と機構要素技術の取組み LUMIX GH5 の開発」（パナソニック（株）：安田幸司 氏）
講演 5：「大口径超広角レンズ「14 mm F1.8 DG HSM | Art」の光学設計」（（株）シグマ：佐藤良祐 氏）
講演 6：「デジタルカメラとインクジェットプリンタによる立体複製画の紹介」（（株）リコー：畑中伸一 氏）
講演 7：「幻の大絵馬の彩色復元　明治期の白黒写真を読み解く」（凸版印刷（株）：木下悠 氏）
講演数 7 件
参加者数：129 名

12）平成 29 度画像保存セミナー（平成 29 年 11 月 1 日，東京都写真美術館ホール）
日本写真学会画像保存部会（画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会）は，次世代伝えるべき写真画像およびその他の画像記録物の確実な保存を目指し，そのための知識の普及と技術の確立を目的として活動を行い，本年度はプリント材料について，銀塩写真の歴史と保存，インクジェットプリントの特徴と保存，デジタルデータ保存について，光ディスク，半導体メモリおよび保存システムの技術と動向，また，保存の実施例に関する講演を目的に開催した
講演 1：「銀塩プリント材料とその画像保存性」（フジフイルムスクエア：梅本眞 氏）
講演 2：「銀塩写真とデジタル写真の表現能力について」（キヤノン（株）：蒔田剛 氏）
講演 3：「光ディスクによる大切なデータの長期保存」（三菱ケミカルメディア（株）：竹島秀治 氏）
講演 4：「デジタル画像の長期保存用ストレージとしての半導体不揮発性メモリの可能性」
—その現状と今後の課題—（芝浦工業大学：小林敏夫 先生）
講演 5：「階層型アーキテクチャで探る画像保管技術の変遷と今後の行方」（元日本オクラル（株）：干鰯谷 拓也氏）
講演 6. 写真原板アーカイブ作成の方法—日本写真保存センターの実践から—（日本写真保存センター：松本徳彦／中川裕美 両氏）
講演 6 件. 参加者数 129 名

13）第 5 回アンビエント技術セミナー（平成 29 年 11 月 17 日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社 201C 会議室）
テーマ：プリンテッドエレクトロニクスと IoT 技術
基調講演：「IoT の現在と次の 10 年」日経 BP 社 日経エレクトロニクス：三宅常之 氏）
講演 1：「フレキシブル IoT デバイスとプロセス技術」（産業技術総合研究所：鎌田俊英 氏）
講演 2：「印刷型有機集積回路の進展と IoT センサ分野への展開」（山形大学 時任静士 先生）
講演 3：「圧電性キラル高分子 Film, Fabric, Decorated Bariding Code」（関西大学：田實佳郎 先生）
講演 4：「トリリオン（1 兆個）センサ　—見える, への挑戦—」（産業技術総合研究所：寺崎正 氏）
講演 5：「シート型センサシステムによる構造物ヘルスケア」(大阪大学：関谷毅 氏）
参加者：28 名

14）画像関連学会連合会写真学会・画像学会合同講演会（平成 29 年 12 月 2 日，京都工芸繊維大学 60 周年記念館 1F 記念ホール）
「人文科学と画像データベース～ふたつの対象的なプロジェクトから～」,「発掘写真をデジタルにーなぜ今デジタル化かー」の講演を実施した.

15）画像関連学会連合会 第 4 回秋季大会（平成 29 年 11 月 30 日～12 月 2 日，京都工芸繊維大学 60 周年記念館他）
【主催】 画像関連学会連合会,【共催】 京都工芸繊維大学
全体基調講演「コンピュータグラフィックス研究のパイオニア達の現在とこれからへの期待」（広島修道大学／UEI リサーチ 西田友是 氏）
＜12/1　合同ポスターセッション＞：38 件
＜11/18　オーラルセッション＞（会場）：件数
・日本写真学会オーラルセッション：B＋C 会場（60 周年記念館大セミナー室＋セミナー室）：18 本
・日本印刷学会オーラルセッション：B 会場：（60 周年記念館大セミナー室）：16 件
・日本画像学会オーラルセッション：A 会場（60 周年記念館ホール）：11 件
・画像電子学会オーラルセッション：A 会場（60 周年記念館ホール）：5 件
写真学会参加者 52 名

16）第 29 回写真好きのための定例講演会（平成 29 年 12 月 14 日, (株) ニコン本社とニコンミュージアム）
テーマ：「創立 100 周年記念 特別講演とニコンミュージアム特別展示見学（説明員の展示内容説明と案内付き）」
参加者；20 名

17）第 30 回写真好きのための定例講演会（平成 30 年 1 月 19 日，東京都写真美術館）
テーマ：「オリジナルプリント写真展のギャラリートークと作品鑑賞」
TOP Collection「アジェのインスピレーション」―ひきつがれる精神―
生誕 100 年「ユージン・スミス」写真展
参加者；20 名

18）第 51 回光学五学会関西支部連合講演会（平成 30 年 1 月 27 日，大阪産業大学梅田サテライトキャンパス内）
テーマ：「進化する視覚と行動の理解と応用」として，視覚のメカニズムの解明，および AR（拡張現実）と錯視・行動操作の最先端研究の講演 4 本.

19）CP＋2018 技術アカデミーと学術団体コーナー展示（平成 30 年 3 月 1 日～3 月 4 日，パシフィコ横浜）
CP＋技術アカデミー（日本写真学会企画協力）講演 9 本
参加者：各講演 60 名
CP＋学術団体コーナー展示（日本写真学会紹介と写真学会研究会会員写真展示）
来場者：多数

20）2017 年度 日本写真学会 が誇る強力講師陣による「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」2 日間 講習会（平成 30 年 3 月 3 日：東京工芸大学中野芸術情報館 3 階大会議室，3 月 17 日：日本大学芸術学部江古田校舎東棟 2 階デジタルラボ）
Ⅰプリントを観る 講習会（3 月 3 日）
講義 1：「写真を見ること，写真から感じられること（メディア論，写真論）」小林裕幸（千葉大学）
講義 2：「それぞれの時代に素晴らしい写真がある（写真史）」西垣仁美（日本大学）
講義 3：「プリントの美しさに触れよう第一部（写大ギャラリーでの鑑賞とプリントの見せ方の工夫／額装・照明）」
講義 4：「プリントの美しさに触れよう第二部（オリジナルプリントの鑑賞と解説）」吉野弘章（東京工芸大学）
講義 5：「美しいプリントのための撮影技術」甲田謙一（日本大学）
Ⅱプリントを作る（撮影技術から画像処理～プリント実習）講習会（3 月 17 日）
実習 1：「簡易キャリブレーションでモニタとプリンタの色を合わる」甲田謙一（日本大学）
実習 2：「プリントを作る 実践編 -1 プリンタを使いこなす（ドライバ）」小澤貴也（エプソン販売（株））
実習 3：「プリントを作る 実践編 -2 意図した表現の作品を作る（用紙，レタッチ，ディスプレイに負けないプリント）小澤貴也（エプソン販売（株））

21）メディカルイメージング連合フォーラム 2018（平成 30 年 3 月 19 日～20 日，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会共催，石垣島　ホテルミヤヒラ）

22）第 31 回写真好きのための講演会（平成 30 年 3 月 28 日，東京工芸大学中野芸術情報館 3 階大会議室）
テーマ：「学会誌連載第 40 回 記念講演『画像からくり　その表と裏』
講演：「画像からくり―その表と裏―」桑山哲郎（元キヤノン，日本写真学会幹事）
展示・デモ：連載に登場した実物展示とデモ
奥行反転錯視物体 ペーパークラフト工作の実技指導付き
参加者：14 名

3.　研究及び調査の実施（定款第 5 条（3））

3-1　委員会組織の拡充
技術領域の多様化や産業構造の変化に対応すべく，従来技術委員会の傘下の部会として活動して来た写真文化拡大部会を委員会に格上げして「写真文化拡大委員会」として独立させるとともに，技術委員会の直下に「写真史研究会」と「教育への写真応用研究会」の 2 研究会を新規発足させた.

3-2　技術委員会
技術委員会の各組織は，以下のような活動を行った.

【画像入出力部会】
・画像入出力研究会
今年度は研究会としての活動は無かった.
・カメラ技術研究会
6 回の研究会を開催した．第 25 回カメラ技術セミナーを企画・運営した．また，学会誌での特集，年次大会の運営に協力した.
・表現と技術研究会
研究会の開催は 1 回，同一被写体で銀塩で撮影したものとデジタルカメラで撮影したものをプリントで比較し，評価することを企画して，準備を進めている.

【アンビエント画像部会】
平成 29 年度は研究会開催の都合がつかず，顔画像の見えの改善に関する基礎検討を各委員が行った.

【医用画像部会】
・医用画像研究会
平成 30 年 3 月 19 日－20 日に石垣　ホテルミヤハラにてメディカルイメージング連合フォーラム 2018 に共催参加．共催：日本医用画像工学会　JAMIT フロンティア 2017, 医用画像情報学会，日本生体医工学会生体医用画像研究会，日本写真学会．メディカルイメージング連合フォーラムとしての開催

【画像保存部会】
年次大会および秋季大会および画像保存セミナー（画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会共催）の企画・運営に参加した．画像保存セミナーは平成 29 年 11 月 1 日，東京都写真美術館ホールで開催，有料参加者 129 名，トータル 149 名.
・画像保存研究会
年次大会と秋季大会および平成 29 年度画像保存セミナーの企画・運営に参加した.
・デジタルアーカイブ研究会
年次大会と秋季大会および平成 29 年度画像保存セミナーの企画・運営に参加した.
半導体記録デバイスに関する勉強会を開催した（講師；芝浦工業大学　小林敏夫先生）
文化財写真デジタル化ガイドラインの改訂に着手した（文化財写真技術研究会と共同）.

【アンビエント技術部会】
・アンビエント技術研究会
＋アンビエント技術研究会を平成 29 年 6 月 13 日に富士フイルム東京ミッドタウン本社にて開催した．参加者は 18 名

【第 21 回研究会技術テーマと講師】
「フッ素系側鎖を持つ有機半導体を活用した OFET 材料の作製とトランジスタ特性」：但馬敬介先生（理化学研究所）
「柔軟性をもつ高分子単結晶有機半導体材料」：林正太郎先生（防衛大学校助教）
＋第 5 回アンビエント技術セミナー「プリンテッドエレクトロニクスと IoT 技術」を平成 29 年 11 月 17 日, 富士フイルム東京ミッドタウン本社にて開催（講演数 6 件，参加者数：35 名）した.
・光機能性材料研究会
第 14 回光機能性材料セミナー「銀ナノ構造が拓く光機能性材料のフロンテイア」を平成 29 年 8 月 30 日，東京ミッドタウン　カンファレンスルームにて開催（講演 7 件，参加者数:51 名）した.

【科学写真研究会】
・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し，年次大会で関連 24 件，秋季研究発表会で関連 17 件の発表を行い，この分野の拡大を図った.
・日本写真学会誌，Bulltin of the Society of Photograpy and Imaging of Japan における投稿，解説執筆を勧誘し，日本写真学会誌に関連する投稿論文 1 件，解説 2 件，BSPIJ に関連する投稿論文 3 件の掲載を得た.

【天体写真研究会】
・研究会発足 3 年目の本年度は，前年と同様，天体写真の画質に関

係が深い画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指し，(1) デジカメの内部処理について研究・開発経験者からレクチャー，(2) 一般写真と天体写真の最適処理の違いをデモも交えて比較，(3) より高品位の天体写真を得るためのポイントを参加者間で意見交換するという構成で，研究会を1回実施した．(6月に行い，参加者は毎回約30数名)

・第2回天体写真技術セミナー（平成29年7月10日）を実施した．

【写真史研究会】

・研究会初年につき，学会内での写真史研究の方向性を模索した．写真並びに技術などの歴史的研究の論文誘致，また「写真好き」のための定例講演会への協力を検討した．

【教育への写真応用研究会】

・写真を撮ることや見ることを，教育や福祉，医療へ応用すること，またその普及を目的として本研究会を新設した．

【進歩レビュー分科会】：

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2016年の写真の進歩」作成を行い，学会誌（80巻3号）に特集記事として掲載した．

3-3 写真文化拡大委員会

写真文化拡大委員会の各組織は，以下のような活動を行った．

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

・5回の「写真好き」講演会を開催し，延べ100名を超える参加者があった．

【写真技術セミナー実行委員（写真好きのためのワークショップ】

・昨年度の，第1回写真好きのための講演・ワークショップとして，「ファインアートプリント体験講座」を拡張し，写真の楽しさを学び，写真の世界を広げる実習を通して，写真文化拡大を担って頂く『写真のエキスパート』を増やしていく目的で，「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」講習会を，2部構成，3回に分けて実施．写真を観る事に関する講義から，簡易キャリブレーション，ファインアート紙出力までの講義とワークショップを，小林会長，日大芸術学部　西垣先生，甲田先生，東京工芸大　吉野先生，エプソン販売　小澤貴也氏の講師の方々により実施．

【デジタル写真基礎講座実行委員会】

・今年度は，写真のエキスパートなろう～プリントコース～講習会の企画に集中した為，今年度は見送ることとした．

【新規プリンティング技術研究会】

・日本写真学会・JAGAT印刷総合研究会共催「Japan Colorデジタルプリントセミナー
—JapanColorデジタルを理解する～認証システムについて，デジタル印刷の未来にどう役立てるか—」を平成29年8月1日に，日本印刷技術協会セミナールームにて開催した（日本写真学会参加者：6名）．

【PHOTONEXT技術アカデミー実行委員会】

・写真文化拡大部会の方針に則り，単にメーカーによる最新技術の紹介だけでなく，映像表現や出力に関し幅広いユーザー層に実用的な講演演目になるよう，共催の写真感光材料工業会や後援の（株）プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図った．

【CP＋実行委員会】

・CP＋2017の写真学会展示コーナーで，写真学会紹介，天体写真作品展示および「画像からくり」の機材を展示した．作品説明と学会活動説明を行うとともに名刺及び連絡先の記入で写真学会誌1冊を無料で進呈することで学会への入会案内を積極的に行った．

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会，討論会などの実施

1）PHOTONEXT2017技術アカデミー（平成29年6月20日パシフィコ横浜2F204室：日本写真学会・写真感光材料工業会共催，（株）プロメディア後援，（公社）日本写真協会，（一社）日本写真文化協会，（協）日本写真館協会，（一社）日本写真映像用品工業会，日本フォトイメージング協会協力）

2）2017年度日本写真学会年次大会画像関連学会連合会 第1回合同年次大会（平成29年6月21日～22日，一橋講堂2階，日本写真学会・画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会共催）

3）第54回アイソトープ・放射線研究発表会（平成29年7月5日～7日，東京大学 弥生キャンパス弥生講堂他，弥生講堂アネックス，中島ホール，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会他63学会と共催）

4）第2回天体写真技術セミナー（平成29年7月10日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社201B・C会議室，（公社）日本天文学会，自然科学研究機構 国立天文台，（一社）映像メディア学会，（一社）日本印刷学会，（一社）日本画像学会，（一社）画像電子学会，（一社）日本オプトメカトロニクス協会 協賛，（公社）日本写真協会，（一社）日本写真文化協会 協力）

5）2017年プリント技術セミナーJAGAT共催「JapanColorデジタルプリントセミナー」（平成29年8月1日，日本印刷技術協会3階）

6）第14回光機能性材料セミナー（平成29年8月30日，東京ミッドタウンカンファレンスルームー9，日本化学会，応用物理学会，高分子学会，光化学協会，日本画像学会，電気化学会，有機合成化学協会，画像電子学会，日本光学会，照明学会，日本色彩学会，日本印刷学会，日本表面科学会，電気学会，色材協会，電子情報通信学会，映像情報メデイア学会，日本液晶学会，ナノ学会　協賛）

7）第25回カメラ技術セミナー（平成29年10月25日　国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟セミナーホール，照明学会，映像情報メディア学会，電子情報通信学会，日本オプトメカトロニクス協会，電気学会，日本物理学会，日本印刷学会，日本機械学会，画像電子学会，日本画像学会，情報処理学会，精密工学会，応用物理学会，日本化学会　協賛）

8）平成29度画像保存セミナー（平成29年11月1日，東京都写真美術館ホール，日本写真芸術学会，東京都写真美術館，文化財保存修復学会，情報保存研究会，日本博物館協会，日本画像学会，日本印刷学会，画像電子学会，日本オプトメカトロニクス協会　協賛）

9）第5回アンビエント技術セミナー（平成29年11月17日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社201C会議室　日本化学会，応用物理学会，高分子学会，光化学協会，日本画像学会，電気化学会，有機合成化学協会，画像電子学会，日本光学会，日本印刷学会，日本表面科学会，電気学会，色材協会，電子情報通信学会，映像情報メデイア学会，日本液晶学会　協賛）

10）画像関連学会連合会写真学会・画像学会合同講演会（平成29年12月2日，京都工芸繊維大学60周年記念館1F記念ホール，日本写真学会・日本画像学会共催））

11）画像関連学会連合会 第4回秋季大会（平成29年11月30日～12月2日，京都工芸繊維大学60周年記念館他　画像関連学会連合会主催，京都工芸繊維大学共催）

12）第51回光学五学会関西支部連合講演会（平成30年1月27日，大阪産業大学梅田サテライトキャンパス内，光学五学会関西支部主催））

13）CP＋2018技術アカデミー（平成30年3月1日～2日，パシフィコ横浜：カメラ映像機器工業会主催）日本写真学会協力）

14）CP＋学術団体コーナー展示（平成30年3月1日～4日，パシフィコ横浜：日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同）

15）メディカルイメージング連合フォーラム2018（平成30年3月19日～20日，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会共催，石垣島　ホテルミヤヒラ，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会共催）

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））

5-1 平成29年度学会賞の授与

授賞式において，平成29年度学会賞の授与を行った．学会賞受賞者は次の通りであった．

名誉賞　該当者無し
功績賞　桑山哲郎（千葉大学）
功労賞　山口孝子（東京都写真美術館），井上義之（パナソニック）

学術賞　山田勝実（東京工芸大学）
技術賞　小出淳史（タムロン）
論文賞　渡部隆夫・森重喜・峰利之・新谷俊通（日立製作所）
論文賞　白石幸英・神崎天心・浅野比（山口東京理科大学）
進歩賞　該当無し
東陽賞　原直久（日本大学芸術学部）
会長表彰　該当無し

5-2 平成 29 年度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金（写真研究奨励金）授与
授賞式において，平成 29 年度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った.
交付対象者　木村 充宏（名古屋陽子線治療センター）

5-3 平成 29 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与
授賞式において平成 29 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った.
交付対象者　大川祐輔（千葉大学），茂手木秀行（茂手木秀行写真事務所）・水口淳（個人研究者）

5-4 平成 30 年度学会賞選考
平成 30 年度の学会賞は，各選考委員会の推薦を受け，次のように理事会で決定した.
名誉賞　小林裕幸（千葉大学）
功績賞　半那純一（東京工業大学）
功労賞　該当無し
学術賞　加藤隆志（富士フイルム）
技術賞（2 件）・郷田秀樹・岡田尚大・古澤直子・中山慎・渡辺泰宏・中野寧（コニカミノルタ）・権田 幸祐（東北大学）・藤井武・杉山憲志（富士フイルム）
論文賞（2 件）・田中優貴・山田勝実（東京工芸大学）
・赤穂莉奈・廣瀬未紗・津村徳道（千葉大学）
進歩賞　有賀智子（九州大学）
東陽賞　白岩洋子（紙本・写真修復家，白岩修復工房）
会長表彰　該当無し

5-5 平成 30 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
平成 30 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は，選考委員会の推薦を受け，次のように理事会で決定した.
交付対象者　有賀智子（九州大学）

5-6 平成 30 年度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考
平成 30 年度日本写真学会小島裕研究奨励金は，選考委員会の推薦を受け，次のように理事会で決定した.
交付対象者　小林珠里（写真家）

6. その他目的を達するために必要な事項（定款第 5 条（6））

6-1 総会（1 回）
平成 29 年 6 月 21 日（水）一橋講堂（学術総合センター）2 階 D 会場において一般社団法人化に移行後 6 回目の定時社員総会が開催され，平成 28 年度事業報告，平成 28 年度決算報告並びに会計監査報告，平成 29 年度事業計画案，平成 29 年度収支予算案，平成 29 年度役員等の選任（壇上臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む），会員の除名の計 6 件の議案が承認された.

6-2 理事会（7 回）
隔月定例に開催し，本学会の運営に必要な事項を審議した.

1）会務分担
役員及び会務の分担は次の通りであった.
・理事：
会長・写真文化拡大委員会委員長・「写真好き」のための定例講演会実行委員長・画像関連学会連合会代議員
小林裕幸（千葉大学）
副会長（技術）・技術委員長・90 周年記念事業企画委員長・画像関連学会連合会代議員　吉田哲夫（富士フイルム）
副会長（企画・総務）・総務理事・企画実行委員長・医用画像部会長・拡大 PT 委員長・画像関連学会連合会代議員
中野　寧（コニカミノルタ）
西部支部長・画像関連学会連合会秋季合同大会実行委員長
岩崎仁（京都工芸繊維大学）
西部副支部長　中川邦弘（三菱製紙）
庶務委員長・進歩レビュー分科会主査
吉田英明（オリンパス）
財務委員長　甲田謙一（日本大学
編集委員長　山田勝実（東京工芸大学）
広報委員長，副総務理事・カメラ技術研究会
松澤良紀（オリンパス）
アンビエント技術部会長　半那純一（東京工業大学）
画像保存部会長　大関勝久（国立映画アーカイブ）
写真文化拡大部会長・写真好きのためのワークショップ
西澤敦（セイコーエプソン）
画像入出力部会委員・副庶務委員長 CP＋/PHOTONEXT 特命
鈴木博文（ニコン）
新規プリンティング技術分野特命郡司秀明（日本印刷技術協会）
年次大会/秋季大会プログラム委員長・副編集委員長
久下謙一（千葉大学）
アンビエント技術研究会副主査，次大会実行委員
飯野裕明（東京工業大学）
天体写真技術研究会副主査　蒔田剛（キヤノン）
写真史研究会主査，写真の教育応用研究会委員
白山眞理（日本カメラ博物館）
光機能性材料研究会主査，アンビエント技術研究会委員
加藤隆志（富士フイルム）
・幹事：
広報副委員長　桑山哲郎（千葉大学）
画像入出力部会長　豊田堅二（日本大学）
画像保存部会副部会長・画像保存研究会主査
山口孝子（東京写真美術館）
画像保存部会・画像保存研究会　高橋則英（日本大学）
画像保存部会・デジタルアーカイブ研究会主査
清野晶宏（IMAGICA）
アンビエント画像部会長　津村徳道（千葉大学）
医用画像副部会長　桑原孝夫（富士フイルム）
医用画像研究会　松本政雄（大阪大学）
アンビエント技術研究会副主査・光機能性材料研究会
稲垣由夫（富士フイルム）
アンビエント技術研究会副主査　飯野裕明（東京工業大学）
アンビエント技術研究会副主査　宮本公明（富士フイルム）
アンビエント技術研究会・光機能性材料研究会
内田孝幸（東京工芸大学）
写真文化拡大部会・画像入出力部会
大川泰輔（セイコーエプソン）
広報委員会ホームページ特命　大川裕輔（千葉大学）
写真文化拡大　松下艶子（ニコン）
年次大会実行委員　田中里実（日本大学）
写真エキスパート講習会委員　吉野弘章（東京工芸大学）
科学写真研究会副主査　中竜大（名古屋大学）
科学写真研究会　山下清司（元富士フイルム）
科学写真研究会　河合 清（富士フイルム）
・監事：　高田俊二（千葉大学）
豊田堅二（日本大学）
・事務局長（兼）会勢拡大委員長　山岸　治

2）役員研修会（8 月）
会長以下の役員が研修会を開催し，本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した.
平成 29 年 8 月 24 日（木）東京工芸大学中野キャンパス 1 号館 2 階多目的室
役員研修課題：『今後の日本写真学会の方向性と役割について』
(1) 平成 29 年度の基本方針内容―写真文化拡大委員会について―
(2) 写真エキスパート講習会を通した会勢拡大について
(3) 写真メディアリテラシーの現状と学内活動の具体化についてに

関する提案と役員での具体化に向けた討議を行った.

6-3 支部の運営に関する会議

1）西部支部幹事会

幹事会を開催し，西部支部活動の企画，準備および支部運営に関する協議を行った.

6-4 各委員会

1）役員等選考委員会

役員等の選考を行った.

2）人事委員会

学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い，来年度の処遇を決定した.

3）庶務委員会

平成 28 年度事業報告並びに平成 29 年度事業計画案の総会承認を得た．活動計画表，組織系統図を更新した．平成 29 年度事業報告案並びに平成 30 年度事業計画案を作成し，理事会承認を得た.

4）財務委員会（2 回）

平成 28 年度決算報告並びに平成 29 年度予算案の総会承認を得た．平成 29 年度中間決算内容を審議し承認した．学会各事業活動の改善状況，特に財務改善の検討を行った．平成 29 年度決算報告並びに平成 30 年度予算案を作成し，理事会承認を得た.

5）編集委員会（4 回）

学会誌の編集方針，特集記事の企画検討,「解説」,「口絵」,「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った．投稿論文の勧誘を行い，掲載論文数の増加を図った．英文論文誌 BSPIJ（BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN）を Web 版として発行した.

6）技術委員会

昨年度実施した部会長･研究会主査会議の議論を基に，各部会･研究会にて研究会活動の活性化のための具体的活動に展開した．成果として，年次大会，秋季大会においける発表の技術分野の偏りに改善の兆候が見られた．また，重要課題においては代表理事会において議論し，活動の方向づけを適宜実施した.

7）写真文化拡大委員会

委員会の役割を実現できるようメンバーを決めた.

8）企画実行委員会

企画担当副会長が，代表理事会にて新規事業の企画ならび実行を検討し，今年度は，写真史研究会，と教育への写真応用研究会の主査・副主査の選任を具体的活動の協議を行った.

9）国際交流委員会

画像関連学会連合会代議員会で，画像電子学会･日本印刷学会･日本画像学会と共催で，合同年次大会内で，国際会議デイの開催の具体化を検討し，2018 年度は，国際セッション round table の開催を行う様に，手配・準備を行った.

10）広報委員会

ホームページのタイムリーな更新と新たな運用を行うことにより，会員への情報提供サービス向上を図って来た．トップページの「更新情報」では，日本写真学会がこれから開催するイベントを最上部に簡潔に記載し，空白スペースの後にその他の更新情報を掲載することで，参加受け付け中のイベントに対する注目度を高めている．また,「最新イベント情報」には主催イベントだけでなく協賛イベントを掲載することで，引き続き画像関連の学会の活動の全容が見えるようにしている.「写真のある美術館・博物館・資料館」の企画に連動し，開催中あるいは開催予定のイベント広報ページを pdf ファイルで作成し，リンクを用いて各イベントの Web サイトにアクセスできるというサービスも実施している．学会誌刊行に同期し「画像からくり」の内容のカラー図版を都度ホームページ上で公開した.

英文論文誌の年 2 回の発行は，英文論文の pdf ファイルと，pdf ファイルによる暫定版の英文論文誌トップページを開催することで行っている.

「CP＋2018」では，天体写真技術研究会・理事による作品展示と，日本写真学会の活動紹介のパネル展示を行った．また,「画像からくり」で取り上げた内容を紹介する資料を展示, ペーパークラフトと日本写真学会誌を希望者に無償提供した.

日本写真学会のホームページ改革推進委員会では，委員会の中心メンバーを選定，作業ターゲットを絞り検討作業を進めている.

11）会勢拡大委員会

「写真のエキスパートになろう！講習会」,「写真好きのための工場見学会＆撮影スポット巡りツアー」の新規企画や「写真好きのためのワークショップ」,「科学技術研究会―原子核乾板技術研究発表会」，および従来からの「写真好きのための定例講演会」,「天体写真技術研究会」等の写真学会会員限定の講演会･研究会への参加募集と入会勧誘を行うと共に，他のセミナー等のイベントでの入会キャンペーンを通して，会員外の写真愛好者や関連業界従事者に対して本学会入会への勧誘・啓蒙活動を行った．今年度は，21 名の新規入会に結び付けた.

6-5 特務担当

1）画像関連学会連合会

画像関連学会連合会代議員に代表理事 3 名（小林会長，吉田副会長，中野副会長）および山岸事務局長が参画して，画像関連連合会合同秋季大会，画像関連連合会合大会，画像関連連合会国際化おびその他の連合会課題に関して，討議を行い，理事会承認の元に，連合活動を推進した.

2）画像関連学会連合会：3D タスクフォース活動

画像関連学会連合会の分科活動として「3D プリンティング」に関する調査・検討活動を継続している．2017 年度は，活動が無かった.（担当：桑山理事）

3）科学技術振興機構

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて，昨年度に引き続き，科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った.

4）日本写真学会 90 周年記念事業

平成 29 年度は，以下の記念事業の継続実施を行った.

(1) 創立 90 周年記念学会誌刊行事業

学会誌 80 巻 2 号にて日本写真学会創立 90 周年記念特集記事第 2 報を企画実施した.

(2) 創立 90 周年記念ホームページ改革

ホームページ改革推進ワーキンググループを組織し，会員への情報受発信の充実の為

ホームページ構成を決め，業者選定と発注を行った.

7. 会勢

本年度末（平成 30 年 3 月 31 日現在）における会員の異動状況は，次の通りである.

	本年度末（平成30年3月31日現在）	前年度末（平成29年3月31日現在）	増減
正 会 員	701 名	729 名	28 名減
賛助会員	35 社	37 社	2 社減
購読会員	17 社	17 社	±0
合　　計	753 名	783 名	30 名減

以上

【第２号議案】平成 29 年度決算報告並びに会計監査報告（P ＝＝ページ参照）

【第３号議案】平成 30 年度事業計画

1.　基本方針（定款第４条）

1）事業収支改善のために研究講演事業，学会誌刊行事業，法人管理事業の確実な遂行により回復基調を継続的に実施できる事業計画の立案を行う．

2）写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大と写真文化の裾野拡大の為に，技術委員会と写真文化拡大委員会を両輪として活動し，技術の深化と会勢拡大を図る．技術委員会は ①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術部会，アンビエント画像部会，②デジタルも含めた画像保存部会及び最新の医用分野での医用画像部会，③写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会の５部会および傘下研究会と，委員会直下に設置した天体写真技術研究会と科学写真研究会および新規立上げの写真史研究会・教育への写真応用研究会における部会・研究会活動を活性化する．また写真文化拡大委員会は写真文化の裾野を拡大する施策と活動を行う．これらの活動推進の為，年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す．

3）写真及び画像に関する技術領域を拡大し，研究成果の発表及び関連情報提供の為，写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う．

4）会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う．

5）以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け，行動する．

①技術委員会の画像入出力部会，アンビエント画像部会，医用画像部会，画像保存部会，アンビエント技術部会の５技術部会と各研究会，および写真文化拡大委員会は，セミナー等の実行委員会を組織化して，調査・研究の充実化を図る．

②画像関連学会連合会合同秋季大会の実施と次年度合同年次大会の企画を行う．

③各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る．

④写真好きの写真愛好者を対象にした，写真知識・写真文化の会勢拡大を図る．

⑤学会誌の充実の為，英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る．

⑥学会広報体制の強化と学会情報の活発な発信を図る．

⑦ホームページおよび会員管理システムのリニューアルで会員サービスの向上を図る．

2.　学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第５条（1））

2-1　学会誌の刊行

1）学会誌を年間４冊発行する．

2）年次大会や秋季研究報告会の要旨集を学会誌に掲載し発行する．

3）論文投稿を積極的に勧誘し，親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する．あわせて投稿料収入の増加を図る．

2-2　英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の刊行

1）6，12 月発行予定の英文の論文誌を web 誌として発行し，論文の投稿を積極的に呼びかける．

2）英文誌に掲載された論文の題目や著者を分野別に整理した上で，画像４学会の会員に電子メールでお知らせする．

3.　研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第５条（2））

3-1　研究発表会，講演会などの実施

1）写真好きのための「レンズ工場見学＆撮影スポットめぐり」（平成 30 年４月 18－19 日，会津磐梯町・会津若松他）

2）PHOTONEXT 技術アカデミー（平成 30 年６月５日，パシフィコ横浜）

3）2018 年年次大会／画像関連学会連合会合同大会（平成 30 年６月 20 日－21 日，千葉大学西千葉キャンパスけやき会館他）

4）天体写真技術研究会（平成 30 年７月予定）

5）第 15 回光機能性材料セミナー（平成 30 年８月 31 日，富士フイルム本社）

6）アンビエント技術セミナー（平成 30 年 10 月予定：富士フイルム本社）

7）第 26 回カメラ技術セミナー（平成 30 年 10 月 24 日，オリンピック記念青少年総合センター）

8）平成 30 年度画像保存セミナー（平成 30 年 10 月 26 日：東京都写真美術館）

9）画像関連学会連合会第５回秋季大会（平成 30 年 11 月 15 日－17 日，京都工芸繊維大学）

10）「写真好き」のための定例講演会（平成 30 年度６回予定，詳細未定）

11）アンビエント技術研究会（平成 30 年度２回予定，詳細未定）

12）西部支部主管行事（詳細未定）

13）第 52 回光学五学会関西支部連合講演会（詳細未定）

14）2018 年度「写真のエキスパートになろう！」講習会（平成 30 年，詳細未定）

15）科学写真研究会セミナー（平成 30 年，詳細未定）

16）第２回原子核乾板技術研究発表会（平成 30 年，詳細未定）

17）プリント技術セミナー（平成 30 年度，詳細未定）

18）CP＋2019 学会展示（平成 31 年，詳細未定）

3-2　新規事業

平成 29 年度役員研修会のテーマ『今後の日本写真学会の方向性と役割について』についての議論から，写真文化拡大委員会や新規研究会の立上げを通して，以下の新規事業の具体化を推進する．

（1）写真文化拡大委員会は，写真文化の啓蒙・教育活動全体を統括し，技術委員会の個々の技術技部会・研究会と連携して活動する．

（2）研究分野拡大のため，一昨年度に活動開始した天体写真技術研究会や科学写真研究会の充実発展を進めると共に，昨年度に新設した「写真史研究会」と「教育への写真応用研究会」の活動の具体化を行う．

（3）「写真」の基礎的な，理論や技術を学び，写真の楽しさを感じて，写真作品をより多くの人に見せる楽しさや，自身の写真の世界を広げる知識習得・実習を受講し，「写真」の文化をより広く普及して行く人材育成の為に『写真のエキスパートになろう』講習会を新規に行う．

（4）最先端画像技術を取り入れる研究会創設が必要で，技術委員会で具体化に向けた調査や核となる先生の探索などを検討する．

今年度は，これらの活動の更なる充実を図る．

4.　研究及び調査の実施（定款第５条（3））

4-1　技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け，以下の活動を行うことにより，本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる．

特に，本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化並びに写真で培った基盤技術の深耕・展開と写真愛好家層への学会活動の充実をはかるために，新設した写真史研究会，教育への写真応用研究会の活動を写真文化拡大委員会と協働して活性化する．

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化する．

・画像入出力研究会

年次大会の企画・運営に参加する．

・カメラ技術研究会

年７回の研究会を開催する．「カメラ技術セミナー」を企画・運営する．学会誌の「2017 年のカメラ」，「写真の進歩」などの執筆に協力する．年次大会の運営に協力する．

・表現と技術研究会

年に数回の研究会を開催し，銀塩プリントとデジタルプリントに関してのディスカッションを行う．銀塩プリントとデジタル

プリントの比較評価を行う.

【アンビエント画像部会】

傘下の研究会はアンビエント画像研究会のみであり，本年度も部会と一体で活動する.

・アンビエント画像研究会

研究会活動内容の再検討を行う．年次大会・秋季大会の企画・運営に参加する.

【医用画像部会】

傘下の研究会は医用画像研究会のみであり，本年度も部会と一体で活動する.

・医用画像研究会

他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを開催する.

【画像保存部会】

下記，2つの研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに，学会HP，学会誌にて活動を広く周知する.

・画像保存研究会

平成30年度画像保存セミナーを企画，実行する.

勉強会実施の準備を行う.

・デジタルアーカイブ研究会

デジタル画像の保存とその技術についての勉強会を実施し，急速に進展するデジタル分野の情報を収集，発信する.

画像保存研究会と協力して，平成30年度の画像保存セミナーを企画，実行する.

・文化財写真の保存に関するガイドラインの改訂を進める.

【アンビエント技術部会】

光機能材料研究会とアンビエント技術研究会の両輪で，材料系研究における活動基盤づくりを進め，学会内外への研究会活動を展開と其々の講演研究事業の実施と年次大会および秋季大会においてアンビエント技術セッションを企画する.

・アンビエント技術研究会

会員内外の参加を目的とした研究会の開催を行う.（3回開催予定.）第5回アンビエント技術セミナーを企画開催する．研究会の成果を学会誌に特集企画する.

・光機能性材料研究会

第15回光機能性材料セミナーを企画開催する．研究会の成果を学会誌に特集企画する.

【科学写真研究会】

原子核乾板技術分野を中心に科学写真系研究における活動基盤づくりを進め，学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施と年次大会，秋季大会および国際学会での発表，学会誌への投稿を企画する.

・原子核乾板などの科学写真に関して，年次大会・秋季大会での研究発表と，成果の学会誌への投稿を関係者に促す．銀塩写真技術の専門家と原子核乾板利用者との技術交流を深める発表会・講演会等の企画を行う.

【天体写真研究会】

・天体写真技術研究会は，学会員向けの「画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指した研究会」を，2回程度実施する．今年度は，最近の技術進歩で画質や精度が向上している撮影対象について，その作品の動向とそれを支える技術の中身の解説をセットで紹介して，今後の課題を議論するスタイルを目指していく.

【写真史研究会】

・日本写真学会年次大会への写真史・技術史研究発表，並びに，学会誌への論文投稿誘致を推進する．また，写真史研究に欠かせない資料所蔵情報共有のために，大学や美術館などの資料担当者と連携をはかる協議会設置を検討する．さらに「写真好き」のための定例講演会の企画へ協力していく.

【教育への写真応用研究会】

・教育，福祉，医療など幅広い分野から写真活動の実践者をお招きし，年2回程度指導者研修を行う.

・誰もが実践可能なワークブックを作成し，普及活動を行う.

・講師派遣などの要望に応える.

【進歩レビュー分科会】：

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い，学会誌上で報告し，学会ホームページに掲載する.

4-2 写真文化拡大委員会活動の実施

写真学会と一般の写真愛好家，写真大学を中心とした学生との交流を中心としつつ，カメラ好きの女性にまで対象を広げていくべく活動を行っていく．用紙の選択肢が広がっている環境下において，撮影からプリントまで，RAWデータの扱い方を含めたプリントの基礎講座のような，専門家以外の方々を対象にした企画を行い，参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく．写真学会の専門性を活かし，一般人との垣根を低くする活動を行いたい.

傘下の各組織は，以下のような活動を行う.

【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

・写真文化拡大委員会の方針に則り，2012年からの「写真好き」のための定例講演会32回の参加者および新規対象者に興味を持って頂ける企画の充実化を図る．6回／年の実施を目標にする.

【写真技術セミナー実行委員（写真好きのためのワークショップ)】

・写真文化拡大委員会の方針に則り，昨年度実施した「写真」の基礎的な，理論や技術を学び，写真の楽しさを感じていただき，写真作品をより多くの人に見せる楽しさや，自身の写真の世界を広げる実習を通して，『写真のエキスパート』となって頂き，講習会で得たことをベースに，「写真」の文化をより広く，普及して行く人材育成を目的にした「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」として，「写真を作る」主体の写真好きのためのワークショップに「写真を観る」ことを加えた講習会を実施した．今年度も，企画実施を行う.「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」の第二弾の企画･実施を行う.

【デジタル写真基礎講座実行委員会】

・デジタル写真基礎講座の主要テーマの「画像処理」については，「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」にて取り入れたため，「写真好き」のための定例講演会等を通して，写真好きの層のニーズ探索を行う.

【新規プリンティング技術研究会】

・デジタル印刷における最新の写真表現技術動向を基礎から応用まで解説するプリント技術セミナーを企画実施する.

【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

・写真文化拡大委員会の方針に則り，単にメーカーによる最新技術の紹介だけでなく，映像表現や出力に関し幅広いユーザー層に実用的な講演演目になるよう，共催の写真感光材料工業会や後援の（株）プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図る.

【CP＋実行委員会】

・CIPAとの関係から，学術団体ブースでの学会PR展示を継続する.

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会，討論会などの実施

1）画像関連学会連合会（日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会）代議員会を引き続き推進し，今年度の第1回合同大会／年次大会および第5回合同秋季大会の開催，次世代技術領域の創成活動の具体化および合同研究会の創設等の課題の具体化を図り，画像関連学会連合会の連携領域の強化をはかる.

2）PHOTONEXT 技術アカデミー（平成30年6月5日，パシフィコ横浜，写真感光材料工業会共催，写真関連諸団体協賛）

3）第15回光機能性材料セミナー（平成30年8月31日，富士フイルム本社，日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛）

4）アンビエント技術セミナー（平成30年10月予定：富士フイルム本社，日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛）

5）第26回カメラ技術セミナー（平成30年10月24日，オリンピッ

ク記念青少年総合センター照明学会，電気学会，日本物理学会，日本機械学会等　14 学協会協賛）
6）平成 30 年度画像保存セミナー（平成 30 年 10 月 26 日：東京都写真美術館，日本写真芸術学会，東京都写真美術館，文化財保存修復学会等 9 学協会協賛）
7）画像関連学会連合会第 5 回秋季大会（平成 30 年 11 月 15 日－17 日，京都工芸繊維大学，画像関連学会連合会主催，京都工芸繊維大学共催）
8）西部支部主管行事（詳細未定）
9）第 52 回光学五学会関西支部連合講演会（詳細未定，光学五学会関西支部主催））
10）2018 年度「写真のエキスパートになろう！」講習会（詳細未定，カメラ映像機器工業会・写真感光材料工業会協力）
11）科学写真研究会セミナー（詳細未定，日本化学会・応用物理学会・高分子学会他 20 学協会協賛）
12）プリント技術セミナー（詳細未定，印刷技術協会共催）
13）CP＋2019 技術アカデミー協力（平成 31 年，詳細未定，カメラ映像機器工業会主催）日本写真学会協力）
14）CP＋2019 学会展示（平成 31 年，詳細未定，日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同）
15）第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会（詳細未定，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会他 63 学会と共催）
16）第 3 回天体写真技術セミナー（詳細不明（公社）日本天文学会，国立天文台等 9 団体協賛，（公社）日本写真協会，（一社）日本写真文化協会 協力）
17）メディカルイメージング連合フォーラム 2019（平成 31 年，日本アイソトープ協会主催，日本写真学会共催

5-2　国際交流に関する事項
1）2018 年画像関連学会連合会合同大会の中で，国際セッションの round　table を海外関連学会・大学からの招聘 6 名と連合会代議員ならびに国際関係対応実行委員で行う．
2）2019 年度画像関連学会連合会合同大会での国際会議 DAY（International Conference on Advanced Imaging）を実施することを画像関連学会連合会代議員会にて検討する．

6.　研究の奨励および研究業績の表彰（定款第 5 条（5）
6-1　平成 30 年度学会賞（功績賞，功労賞，学術賞，技術賞，論文賞，進歩賞，東陽賞，会長表彰）の授与．
6-2　平成 30 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
6-3　平成 30 年度小島裕研究奨励金の授与
6-4　平成 31 年度学会賞（名誉賞，功績賞，功労賞，学術賞，技術賞，論文賞，進歩賞，東陽賞，会長表彰）受賞者の選考
6-5　平成 31 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
6-6　平成 31 年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考
6-7　名誉会員の推薦，永年会員の認証
6-8　フェローの推薦と認定

7.　その他目的を達するために必要な事項（定款第 5 条（6）
7-1　運営に関する会議
第 7 回社員総会（平成 30 年 6 月 20 日），理事会（年 7 回），役員研修会（年 1 回），学会賞選考委員会（年 1 回），代表理事会（年 10 回），財務委員会（年 2 回）および庶務委員会，人事委員会（適時），その他．
7-2　編集委員会（年 4 回）
学会誌の編集方針，内容の更新，特集・各種記事の企画，論文審査体制，著作権の整備などの検討を行う．平常業務は電子メールを活用し，委員間の意見交換を随時行う．会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる．学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い，同時に投稿を呼びかける．英文論文誌の掲載論文数を増加させるための方法を検討する．
7-3　技術委員会
定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり（電子メールによる会議含む），研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う．又，研究会，講演会，セミナーなどを適宜開催し，広く本学会内外に活動状況を提示することにより，本学会における当該科学技術分野の向上を図る．さらに年次大会，秋季大会でのプログラム委員活動を通じて研究発表を活性化し，技術分野の偏在の解消を引き続き推進する．
7-4　写真文化拡大委員会
写真学会と一般の写真愛好家，写真大学を中心とした学生との交流を中心としつつ，カメラ好きの女性にまで対象を広げていくべく活動を行っていく．用紙の選択肢が広がっている環境下において，撮影からプリントまで，RAW データの扱い方を含めたプリントの基礎講座のような，専門家以外の方々を対象にした企画を行い，参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく．写真学会の専門性を活かし，一般人との垣根を低くする活動を行う．
7-5　企画実行委員会
新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため，会長，企画担当副会長，技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で，具体策の検討を図る．又，写真文化拡大活動を画像入出力部会･写真文化拡大部会が連携して進めると共に，関連学協会との連携強化を検討と実行推進を図る．
7-6　国際交流委員会
2018 年画像関連学会連合会合同大会の中で，国際セッションの round table を海外関連学会・大学からの招聘 6 名と連合会代議員ならびに国際関係対応実行委員で行う．
7-7　広報委員会
ホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信を継続的に行う．英文論文掲載の利便性などの課題に対応し，ホームページの更新を行う．また，写真関係のイベント等を通じ，一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う．
7-8　会勢拡大委員会
会勢拡大施策の企画ならびに実行推進にあたるため，会長，企画担当副会長，技術担当副会長の代表理事からなる当委員会で，学会活動の通して会勢拡大の為の具体策の検討を図る．各種講演会，セミナーでの正会員勧誘に加え，役員主導の勧誘活動を行う．又，賛助会員についても，カメラ関連，画像関連など，従来非会員であった分野にも役員主導で積極的に働きかける．また，新規技術部会，研究会のメンバー拡大を図り，部会・研究会の活性化を図る．
7-9　画像関連学会連合会関連委員会
画像電子学会，日本印刷学会，日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる平成 30 年度の代議員会を適宜実施し，4 学会協同事業として，2018 年画像関連学会連合会合同大会（平成 30 年 6 月，千葉大学）と第 5 回画像関連学会連合会秋季大会（平成 30 年 11 月，京都工芸繊維大学）の内容の検討を行う．
7-10　科学技術振興機構電子アーカイブ事業
科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として，科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う．

以上

【第 4 号議案】平成 30 年度収支予算
(P ＝＝ページ参照)

【第 5 号議案】平成 30 年度役員等の選任（案）

1.　新役員候補者（敬称略）
1-1　新役員候補者（敬称略）
1）理事　10 名
今泉 祥子（千葉大学）岩崎 仁（京都工芸繊維大学）
久下 謙一（千葉大学）甲田 謙一（日本大学）
鈴木 博文（ニコン）清野 晶宏（イマジカ）
中川 邦弘（三菱製紙）山田 勝実（東京工芸大学）

吉田 哲夫（名古屋大学）吉田 英明（オリンパス）
2）監事　1名
高田 俊二（千葉大学）
1-2 残留役員（敬称略）
1）理事　10名
西澤 敦（セイコーエプソン）大関 勝久（国立映画アーカイブ）
郡司 秀明（日本印刷技術協会）蒔田 剛（キヤノン）
松澤 良紀（オリンパス）加藤 隆志（富士フイルム）
中野 寧（コニカミノルタ）半那 純一（東京工業大学）
白山 眞理（日本カメラ財団）飯野 裕明（東京工業大学）
2）監事　1名
豊田 堅二（日本大学）
参考
2. 平成30年度評議員
1）平成30年度委嘱　9名
阿部 隆夫（信州大学）有馬 登（三菱製紙）
伊沢 太郎（凸版印刷）小川 治男（オリンパス）
金田 英治（日本写真学会フェロー）鈴木 邦夫（三菱製紙）
田中 俊夫（京都工芸繊維大学）谷 忠昭（日本写真学会フェロー）
三谷 公二（日本放送協会放送技術研究所）
2）残留評議員　14名
大石 恭史（元会長）大野 隆司（千葉大学）
奥村 資紀（セイコーエプソン）金田 直也（キヤノン）
北見 耕一（東京工芸大学大学法人）久保田 敏弘（京都工芸繊維大学）
腰塚 国博（コニカミノルタ）後藤 哲朗（ニコン）
古森 重隆（富士フイルム）島田 文生（コニカミノルタ科学振興財団）
藤嶋 昭（東京理科大）三宅 洋一（千葉大学）
原 直久（日本大学）義江 龍一郎（東京工芸大学）
3. 幹事
本部：18名
稲垣 由夫（元富士フイルム）内田 孝幸（東京工芸大学）
大川 泰輔（セイコーエプソン）大川 裕輔（千葉大学）
河合 清（富士フイルム）桑原 孝夫（富士フイルム）
桑山 哲郎（千葉大学）鈴木 敬子（神奈川県立近代美術館）
高橋 則英（日本大学）田中 里実（日本大学）
津村 徳道（千葉大学）中 竜大（名古屋大学）
松下 艶子（ニコン）松本 政雄（大阪大学）
宮本 公明（元富士フイルム）山口 孝子（東京都写真美術館）
山下 清司（元富士フイルム）吉野 弘章（東京工芸大学）
西部支部：8名
井上 義之（パナソニック）佐藤 慈（九州産業大学）
澤田 卓也（かつらぎ町教育委員会）中川 邦昭（ナカガワフォトギャラリー）
西村 直哉（三菱製紙）湊 健（三菱製紙）
吉城 武宣（三菱製紙）米澤 義朗（大阪市立大学）
4. フェロー
金田 英治（元副会長）小林 裕幸（元会長，千葉大学名誉教授）
谷 忠昭（元会長，元富士フイルム）三宅 洋一（元会長，千葉大学名誉教授）

【第6号議案】　会員の除名

定款第10条により，20名を除名とする．

以　上

一般社団法人 日本写真学会 第７回定時社員総会議事録

１．開催日時：平成30(2018)年６月20日（水）9:00～9:50

２．会　場：国立大学法人 千葉大学 西千葉キャンパスけやき会館３階レセプションホール
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

３．議決権を有する代議員総数
２６名

４．議決権を有する出席代議員数
２０名（本人出席：４名、委任状：１６名）

５．出席代議員
河合清、水口淳、徳永辰幸、今泉祥子

６．出席役員および役員候補者
理事：中野寧、今泉祥子、大関勝久、加藤隆志、久下謙一、甲田謙一、白山眞理
鈴木博文、中川邦弘、西澤敦、半那純一、松澤良紀、山田勝実、吉田哲夫
監事：髙田俊二、豊田堅二

７．議事録作成者
事務局：山岸治

８．議事の経過の要領及びその結果
会長の小林裕幸は定款第１７条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第１９条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会は適法に成立した旨を報告し、議事に入った。
ついで議長は、定款第２１条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、中野寧氏および吉田哲夫氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。
ついで議長は、定款第１４条の規定により、以下の第１号議案から第７号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。

第１号議案　平成２９年度事業報告の件
議長に指名された鈴木博文庶務副委員長は、平成２９年度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。

第２号議案　平成２９年度決算報告・会計監査報告
議長に指名された甲田謙一財務委員長は、平成２９年度の決算報告書にて収支決算を報告し、財務監査および決算書作成時に会計士資格保有の専門家の確認がされているかについて、朝日税理士法人で確認している旨の質疑を行った後、髙田監事から監査の結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第３号議案　平成３０年度事業計画案の件
議長に指名された鈴木博文庶務副委員長は、平成３０年度の事業計画案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第４号議案　平成３０年度収支予算案の件
議長に指名された甲田謙一財務委員長は、平成３０年度収支予算書にて、平成３０年度収支予算案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第５号議案　平成３０年度役員等の選任
議長は、定款第２３条の規定により、平成３０年度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、同中野寧選考委員は、平成３０年度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

新任理事（２名）：今泉祥子、清野晶宏
再任理事（８名）：岩崎仁、久下謙一、甲田謙一、鈴木博文、中川邦弘、山田勝実、吉田哲夫、吉田英明
残留理事（１０名）：西澤敦、大関勝久、郡司秀明、蒔田剛、松澤良紀、加藤隆志、中野寧、半那純一、白山眞理、飯野裕明
再任監事（１名）：髙田俊二
残留監事（１名）：豊田堅二

第７号議案　会員の除名
議長は、定款第１１条の規定により、２０名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午前９時５０分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款２１条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成３０年６月２０日
一般社団法人 日本写真学会 第７回定時社員総会

議長　　小林　裕幸

議事録署名人　中野　寧

議事録署名人　吉田　哲夫

【第２号議案】平成 29 年度決算報告並びに会計監査報告

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

（単位:円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1．流動資産			
現金預金	5,629,856	7,250,219	△ 1,620,363
未収会費	2,330,750	1,992,750	338,000
未収金	443,450	268,410	175,040
立替金	38,690	33,990	4,700
流動資産合計	8,442,746	9,545,369	△ 1,102,623
2．固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	27,000,000	27,000,000	0
基本財産合計	27,000,000	27,000,000	0
(2) 特定資産			
普通預金	3,503,520	4,504,999	△ 1,001,479
特定資産合計	3,503,520	4,504,999	△ 1,001,479
(3) その他固定資産			
電話加入権	74,984	74,984	0
その他固定資産合計	74,984	74,984	0
固定資産合計	30,578,504	31,579,983	△ 1,001,479
資産合計	39,021,250	41,125,352	△ 2,104,102
Ⅱ 負債の部			
1．流動負債			
未払金	111,334	85,217	26,117
前受金	209,000	3,634,100	△ 3,425,100
預り金	129,489	82,197	47,292
流動負債合計	449,823	3,801,514	△ 3,351,691
負債合計	449,823	3,801,514	△ 3,351,691
Ⅲ 正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
（うち特定資産への充当額）	(3,503,829)	(4,505,303)	(△ 1,001,474)
2．一般正味財産	38,571,427	38,791,944	△ 220,517
（うち基本財産への充当額）	(27,000,000)	(27,000,000)	(0)
正味財産合計	38,571,427	37,323,838	1,247,589
負債及び正味財産合計	39,021,250	41,125,352	△ 2,104,102

正味財産増減計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[5,700]	[1,052]	[4,648]
基本財産受取利息	5,700	1,052	4,648
受取会費	[9,493,350]	[10,141,000]	[△ 647,650]
正会員受取会費	4,981,350	5,373,000	△ 391,650
賛助会員受取会費	4,512,000	4,768,000	△ 256,000
事業収益	[4,079,000]	[3,367,623]	[711,377]
講演・研究事業収入	4,079,000	3,367,623	711,377
受取寄付金	[600,000]	[1,788,000]	[△ 1,188,000]
受取寄付金	600,000	1,788,000	△ 1,188,000
雑収益	[1,268,371]	[1,111,831]	[156,540]
受取利息	2,115	6,115	△ 4,000
広告費	388,800	410,400	△ 21,600
別刷・投稿料代	220,400	231,120	△ 10,720
雑収益	657,056	464,196	192,860
経常収益計	15,446,421	16,409,506	△ 963,085
(2) 経常費用			
事業費	[7,040,501]	[7,252,414]	[△ 211,913]
学会誌等刊行事業費	(2,910,361)	(2,660,374)	(249,987)
学会誌発送費	0	225,554	△ 225,554
印刷製本費	2,825,911	2,341,349	484,562
雑費	17,450	66,971	△ 49,521
審査校正料	67,000	26,500	40,500
講演研究事業費（1）	(2,449,630)	(1,944,842)	(504,788)
給料手当	144,000	172,000	△ 28,000
旅費交通費	233,742	26,900	206,842
会場費	95,000	173,204	△ 78,204
通信運搬費	61,578	19,908	41,670
会議費	116,235	219,000	△ 102,765
消耗品費	120,274	1,836	118,438
諸謝金	530,648	311,830	218,818
印刷製本費	439,344	322,104	117,240
雑費	33,719	34,900	△ 1,181
参加者会合費	675,090	663,160	11,930
講演研究事業費（2）	(52,592)	(623,869)	(△ 571,277)
給料	0	21,000	△ 21,000
参加会合費	0	168,091	△ 168,091
旅費交通費	52,592	77,752	△ 25,160
会場費	0	66,054	△ 66,054
通信運搬費	0	12,726	△ 12,726
会議費	0	13,640	△ 13,640
消耗品費	0	14,825	△ 14,825
諸謝金	0	55,685	△ 55,685
印刷製本費	0	165,564	△ 165,564
雑費	0	28,532	△ 28,532
奨励助成事業	(1,226,932)	(1,624,139)	(△ 397,207)
奨励助成金	1,226,932	1,624,139	△ 397,207
給料手当	318,558	312,247	6,311
旅費交通費	47,867	47,106	761
租税公課	147	64	83
福利厚生費	34,414	39,773	△ 5,359

科目	当年度	前年度	増減
管理費	[7,158,331]	[7,973,467]	[△ 815,136]
給料手当	(4,508,090)	(4,418,777)	(89,313)
事務員給料	4,508,090	3,271,008	1,237,082
臨時雇用賃金	0	1,147,769	△ 1,147,769
会費負担金	214,000	144,500	69,500
旅費交通費	(733,197)	(732,324)	(873)
事務員交通費	677,383	666,631	10,752
役員交通費	55,814	65,693	△ 9,879
減価償却費	0	21,000	△ 21,000
維持修繕費	8,640	0	8,640
通信運搬費	254,856	709,731	△ 454,875
租税公課	71,042	71,654	△ 612
会議費	3,780	0	3,780
消耗品費	123,728	215,227	△ 91,499
福利厚生費	(487,023)	(562,860)	(△ 75,837)
法定福利費	487,023	562,860	△ 75,837
賃借料	139,968	127,332	12,636
諸謝金	550,800	615,600	△ 64,800
事務所維持管理費	0	200,000	△ 200,000
雑非	63,207	154,462	△ 91,255
経常費用計	14,198,832	15,225,881	△ 1,027,049
評価損益等調整前当期経常増減額	1,247,589	1,183,625	63,964
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,247,589	1,183,625	63,964
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,247,589	1,183,625	63,964
一般正味財産期首残高	37,323,838	37,608,319	△ 284,481
一般正味財産期末残高	38,571,427	38,791,944	△ 220,517
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	38,571,427	38,791,944	△ 220,517

予算対比正味財産増減計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[10,602]	[5,700]	[4,902]
基本財産受取利息	10,602	5,700	4,902
受取会費	[9,947,000]	[9,493,350]	[453,650]
正会員受取会費	5,199,000	4,981,350	217,650
賛助会員受取会費	4,748,000	4,512,000	236,000
事業収益	[5,526,026]	[4,079,000]	[1,447,026]
講演・研究事業収入	5,526,026	4,079,000	1,447,026
受取寄付金	[600,000]	[600,000]	[0]
受取寄付金	600,000	600,000	0
雑収益	[1,434,777]	[1,268,371]	[166,406]
受取利息	3,177	2,115	1,062
広告費	291,600	388,800	△ 97,200
別刷・投稿料代	480,000	220,400	259,600
雑収益	660,000	657,056	2,944
経常収益計	17,518,405	15,446,421	2,071,984
(2) 経常費用			
事業費	[8,823,000]	[7,040,501]	[1,782,499]
学会誌等刊行事業費	(3,750,000)	(2,910,361)	(839,639)
事務員給与	10,000	0	10,000
学会誌発送費	350,000	0	350,000
交通費	40,000	0	40,000
印刷製本費	3,000,000	2,825,911	174,089
雑費	10,000	17,450	△ 7,450
原稿費	70,000	0	70,000
Ｊ－ＳＴＡＧＥ編集費	250,000	0	250,000
審査校正料	20,000	67,000	△ 47,000
講演研究事業費（1）	(2,823,000)	(2,449,630)	(373,370)
給料手当	252,000	144,000	108,000
旅費交通費	231,500	233,742	△ 2,242
会場費	200,000	95,000	105,000
通信運搬費	58,500	61,578	△ 3,078
会議費	103,000	116,235	△ 13,235
消耗品費	0	120,274	△ 120,274
諸謝金	836,000	530,648	305,352
印刷製本費	459,000	439,344	19,656
雑費	54,000	33,719	20,281
参加者会合費	629,000	675,090	△ 46,090
講演研究事業費（2）	(700,000)	(52,592)	(647,408)
旅費交通費	30,000	52,592	△ 22,592
通信運搬費	200,000	0	200,000
消耗品費	5,000	0	5,000
諸謝金	155,000	0	155,000
印刷製本費	200,000	0	200,000
雑費	110,000	0	110,000
奨励助成事業	(1,550,000)	(1,226,932)	(323,068)
奨励助成金	1,550,000	1,226,932	323,068
給料手当	0	318,558	△ 318,558
旅費交通費	0	47,867	△ 47,867
租税公課	0	147	△ 147
福利厚生費	0	34,414	△ 34,414

科目	予算額	決算額	差異
管理費	[8,618,121]	[7,158,331]	[1,459,790]
給料手当	(3,999,300)	(4,508,090)	(△ 508,790)
事務員給料	3,782,300	4,508,090	△ 725,790
臨時雇用賃金	217,000	0	217,000
会費負担金	254,000	214,000	40,000
旅費交通費	(850,000)	(733,197)	(116,803)
事務員交通費	600,000	677,383	△ 77,383
役員交通費	250,000	55,814	194,186
減価償却費	40,250	0	40,250
維持修繕費	0	8,640	△ 8,640
通信運搬費	440,000	254,856	185,144
租税公課	74,000	71,042	2,958
会議費	0	3,780	△ 3,780
消耗品費	120,000	123,728	△ 3,728
福利厚生費	(667,091)	(487,023)	(180,068)
法定福利費	667,091	487,023	180,068
賃借料	123,480	139,968	△ 16,488
諸謝金	1,750,000	550,800	1,199,200
事務所維持管理費	200,000	0	200,000
雑非	100,000	63,207	36,793
経常費用計	17,441,121	14,198,832	3,242,289
評価損益等調整前当期経常増減額	77,284	1,247,589	△ 1,170,305
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	77,284	1,247,589	△ 1,170,305
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	77,284	1,247,589	△ 1,170,305
一般正味財産期首残高	0	37,323,838	△ 37,323,838
一般正味財産期末残高	77,284	38,571,427	△ 38,494,143
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	77,284	38,571,427	△ 38,494,143

平成 29 年度監査報告

一般社団法人 日本写真学会
会長　　小林　　裕幸　殿

私たち監事は、当法人の平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律９９条第１項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律１９７条において準用する同法第９９条第１項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第３６条及び第４５条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第６４条において準用する同規則第３６条及び第４５条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

２　監査の結果

(1)事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 30 年 5 月 9 日

監事 髙田　俊二

監事 豊田　堅二

【第 4 号議案】平成 29 年度収支予算書

（単位:円）

科目	予算額	前年度予算額	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[1,000]	[10,602]	[△ 9,602]
基本財産受取利息	1,000	10,602	△ 9,602
受取会費	[10,016,000]	[9,947,000]	[69,000]
正会員受取会費	5,373,000	5,199,000	174,000
賛助会員受取会費	4,643,000	4,748,000	△ 105,000
事業収益	[4,692,000]	[5,526,026]	[△ 834,026]
講演・研究事業収入	4,692,000	5,526,026	△ 834,026
受取寄付金	[1,379,026]	[600,000]	[779,026]
受取寄付金	1,379,026	600,000	779,026
雑収益	[1,396,400]	[1,434,777]	[△ 38,377]
受取利息	6,000	3,177	2,823
広告費	410,400	291,600	118,800
別刷・投稿料代	480,000	480,000	0
雑収益	500,000	660,000	△ 160,000
経常収益計	17,484,426	17,518,405	△ 33,979
(2) 経常費用			
事業費	[9,198,000]	[8,823,000]	[375,000]
学会誌等刊行事業費	(3,710,000)	(3,750,000)	(△ 40,000)
事務員給与	0	10,000	△ 10,000
学会誌発送費	300,000	350,000	△ 50,000
交通費	40,000	40,000	0
印刷製本費	3,000,000	3,000,000	0
雑費	20,000	10,000	10,000
原稿費	80,000	70,000	10,000
Ｊ－ＳＴＡＧＥ編集費	250,000	250,000	0
審査校正料	20,000	20,000	0
講演研究事業費（１）	(3,159,000)	(2,823,000)	(336,000)
給料手当	243,000	252,000	△ 9,000
旅費交通費	342,000	231,500	110,500
会場費	300,000	200,000	100,000
通信運搬費	88,000	58,500	29,500
会議費	144,000	103,000	41,000
消耗品費	20,000	0	20,000
諸謝金	787,000	836,000	△ 49,000
印刷製本費	483,000	459,000	24,000
雑費	46,000	54,000	△ 8,000
参加者会合費	706,000	629,000	77,000
講演研究事業費（２）	(640,000)	(700,000)	(△ 60,000)
旅費交通費	30,000	30,000	0
通信運搬費	400,000	200,000	200,000
消耗品費	0	5,000	△ 5,000
諸謝金	100,000	155,000	△ 55,000
印刷製本費	0	200,000	△ 200,000
雑費	110,000	110,000	0
奨励助成事業	(1,550,000)	(1,550,000)	(0)
奨励助成金	1,550,000	1,550,000	0
雑非	139,000	0	139,000
管理費	[7,971,940]	[8,618,121]	[△ 646,181]
給料手当	(4,430,000)	(3,999,300)	(430,700)
事務員給料	3,280,000	3,782,300	△ 502,300
臨時雇用賃金	1,150,000	217,000	933,000
会費負担金	145,000	254,000	△ 109,000
旅費交通費	(800,000)	(850,000)	(△ 50,000)
事務員交通費	600,000	600,000	0
役員交通費	200,000	250,000	△ 50,000
減価償却費	21,000	40,250	△ 19,250
通信運搬費	700,000	440,000	260,000
租税公課	74,000	74,000	0
消耗品費	200,000	120,000	80,000
福利厚生費	(562,860)	(667,091)	(△ 104,231)
法定福利費	562,860	667,091	△ 104,231
賃借料	123,480	123,480	0
諸謝金	615,600	1,750,000	△ 1,134,400
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑非	100,000	100,000	0
経常費用計	17,169,940	17,441,121	△ 271,181
評価損益等調整前当期経常増減額	314,486	77,284	237,202
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	314,486	77,284	237,202
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	314,486	77,284	237,202
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	314,486	77,284	237,202
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	314,486	77,284	237,202